

あんなこと・こんなこと

大下博子

いつのことだか おもいだしてごらん  
あんなことこんなこと あったでしょう  
うれしかったこと おもしろかったこと  
いつになっても わすれない

毎年三月になると、あちこちの幼稚園から、可愛い声で歌っているこの歌が聞こえてきます。これを聞くたびに、「ああ春になったなあ」という思い、自分の幼かった頃の思い出、息子たちが小さかった頃のことなどが、胸をいっぱいにするのです。

武田ミキ先生と私の間にも、「あんなこと・こんなこと」——嬉しかったこと・悲しかったことが、いくつもあり

### 三、学園運営の寛と厳

ました。

先生に始めてお会いしたときに、私が御挨拶した言葉のような、形式的な決まりきった言葉は、どんなものだったか、まるで覚えていないのですが、学長室の前でちょっとお話ししたこと、玄関前での立ち話などが、ありありと浮かんでくるのです。

学長「子供さんたちは、大きくなられたでしょうね」

大下「はい。二人とも中学生になりました」

学長「そうですね。お母さんも負けなさんなよ」

大下「はいっ」

その一日は、張り切って授業にのぞみました。

大下「先生、この頃はお元気そうですね」

学長「大下先生も、前より若々しく見えますよ」

大下「まあ。ありがとうございます」

その時、私は五十才くらいだったでしようか。嬉しくて、当時悩んでいた更年期障害も、忘れるようでした。

学長先生の目が、少しお悪いと聞いてましたので、学長室の入り口で、「大下でございます」と声をかけて中に

入りました。

学長「あ、国語の先生ですね」(小声で)

大下「この度、母の死に際しまして、御丁寧な申電をいただき有難うございました」

学長「お力落しでしょう。それでお父様は、お元気ですか」

大下「はい。元気でおります」

学長「大事にしてあげなさいませよ」

三年前の冬のことでした。

現在の地に校舎が出来て、移転して来たばかりの頃でした。私は、美化の係をしていましたので、校舎の清掃については、いつも心を悩ましていました。一部の不面目な学生のために、汚れが目立つ所もありました。学長先生から、

「もつと、こことここを綺麗にするように指導して下さい。勉強ばかりでなく、清掃はとても大事なことからね」

と御注意を受けたこともありましたが、先生のお気持に添うような適切な指導ができていなかったと思うと、悲しい気持ちになりました。私は、今でも、叱り方が下手なようです。

普通、人前で注意をされると、ひどく恥かしいものですが、学長先生の御注意は、本人を傷つけるような言い方ではなく、さらりとしたものでした。

### 三、学園運営の寛と厳

先生の長年の教師生活に裏付けられた声のかけ方には、真似の出来ないものがありました。声かけの名人だっ  
と思います。

武田ミキ先生、長い間の御指導、有難うございました。